

農事組合法人宇部川ファーム(岩手県久慈市) ～ 農地の集積・集約を図り、震災に負けず、地域の農地を守る集落営農法人 ～



組織の概要(R2現在)

- ・代表者: 鹿糠沢 津嘉
- ・出資者数: 6名
- ・経営面積: 46ha
- ・主要作物: 主食用米11ha, 飼料用米35ha, ミントマト(ハウス3棟)

農村地域復興再生基盤 総合整備事業 農山漁村地域復興基盤 総合整備事業

- ・地区名: 宇部川地区
- ・工期: H25～R2
- ・受益面積: 80.3ha
- ・主要工事: 区画整理等



久慈地域特産短角牛へ
粃米サイレージを給餌



ミントマトの養液栽培

【ポイント】

- ①震災後、原形復旧にとどまらず基盤整備事業により大区画化した農地を農地中間管理事業を活用し集積・集約化。
- ②湛水直播栽培等による生産コストの低減。久慈地域特産短角牛へ給餌する粃米サイレージ製造、販売による耕畜連携。
- ③ミニトマトの養液栽培に取り組み、作業の一部を障害者福祉施設へ委託する農福連携を実施。

取組の経緯

宇部川地区は、東日本大震災による津波被災農地15haを含む受益農地80haで、平成25年度から原形復旧にとどまらない大区画化、農地利用集積を伴うほ場整備事業を実施した。地区の担い手として、平成26年12月に農事組合法人宇部川ファームを設立し、農地の集約化を図るため、農地中間管理事業を活用して受益面積の約6割を集積した。水稻では集積した農地や湛水直播栽培の導入等による生産コストの低減を図るとともに、久慈地域特産短角牛へ給餌する粃米サイレージを製造。さらに高収益作物として水稻育苗後のハウスを活用したミニトマトの養液栽培に取り組み、パック詰め作業を障害者福祉施設へ作業委託する農福連携にも取り組んでいる。

取組の内容

① 農地中間管理事業を活用し農地を集積・集約化

震災や高齢化による担い手不足の解消、農業経営の継続・安定化を図るため既存の営農組織を母体に法人化。農地中間管理事業を活用し受益農地の約6割を占める46haの農地を集積・集約化している。

② 水稻の生産コストを低減、耕畜連携の取組

水稻は集積した農地及び湛水直播栽培の導入による省力化等により、主食用米の労働時間73.5時間/10aから8.6時間/10aに削減するなど、水稻全体の生産コストは5,917円/60kgに低減。耕畜連携では、飼料用米を栽培し久慈地域特産短角牛に給餌する粃米サイレージに調製して「JA新いわてくじ短角牛肥育部会」に販売することにより、畜産農家の経営安定化にも貢献している。

③ ミントマトを導入し障害者の就業機会を創出

水稻育苗後のハウスを活用したミニトマトの養液栽培(トロ箱養液栽培システム)に取り組み、ミニトマトのパック詰め作業は、地元障害者福祉施設へ作業委託を行い、障害者の就業機会を創出している。

④ 高校生の農作業研修を実施

将来、就農し担い手となるよう高校生の農作業研修を実施している。

	取組前 (H24)	取組後 (R3)		取組前 (H24)	取組後 (R2)		令和2年
区画形状	10a	50a				経営面積	46ha
ほ場筆数	1,077筆	391筆	労働時間 (主食用米)	73.5 時間/10a	8.6 時間/10a	うち農地中間管理事業	46ha

農事組合法人宇部川ファームの活動状況



鹿糠沢代表理事



整備された津波防潮堤と復旧した水田



水稻の湛水直播栽培



粳米サイレージの製造作業



法人が所有する水稻育苗ハウス



水稻育苗ハウスを活用したミニトマトの
トロ箱養液栽培